

薩摩青雲丸新聞

R8年度2次航
第1号

薩摩青雲丸
指導教官



いざ、遠洋へ

一週間の停泊実習の後、学校にて出港式をしていただき盛大に見送られながら出港しました。お忙しい中お見送りしていただきまして、ありがとうございます。台風も心配される中、針路を南へ取り漁場へ向かっています。見渡す限り海、大自然の中で学習に励んでいます。出港後に生徒達を待っていたのは船酔いでしたが、踏ん張り、助け合いながら自身の担当業務を頑張っています。間もなく操業実習が開始されますが、安全第一で実り多い実習になるよう努めていきます。

当直業務

出港後、本格的な当直業務が始まりました。甲板部・機関部共に張りや各情報の記録を行っています。本科生は専攻科生のサポートを受けながら頑張っています。また、舵を持ち船をまっすぐ航行させる難しさを感じています。次当直者への引継ぎもしっかり行います。

操業準備



食当業務

日替わりで司厨部に入り調理の手伝いや片付け、皿洗いなどを行います。船内の食事は一日の楽しみでもあるため美味しい料理を提供してくれることに感謝するとともに保護者の偉大さを感じていることかと思います。



操練(退船)

操練を実施しました。操練の実施は船舶の法律で定められており、定期的に行います。総員退船を想定した名乗用で実施される生徒・乗組員が協力し所定の場所に集まり救命筏へと移動します。全員が真剣に取り組むことにより非常時の際に慌てず行動することができ



延縄操業に必要な仕掛けや漁具の準備をしています。本科生は慣れていない結びぶ・まどめ・回数を重ねるうちに上達しています。大漁を願って頑張っています。



頼りになる専攻科

本航海で3航海目の実習となる専攻科生ですが、本科生の手本となるべく自ら考え率先して行動する姿に感心しています。また各業務において専門知識・技術を乗組員より学んでいます。今後も自身の将来を見据え、本科生の模範として頑張ってもらいたいです。

